

～これから夏に向けてのウイルス感染症にご注意 (1)～

手足口病、ヘルパンギーナ

これからの季節、夜更かしや、高温・多湿などで食欲不振が続くことから体調を崩しがちです。そんな子供たちをねらっているウイルス感染症があります。この季節に代表的な感染症についてご紹介いたします。

手足口病 空気感染

初夏から初秋に流行し、ピークは夏です。また、秋から冬にかけても増加がみられることもあります。多くが4歳位の乳幼児がかかります。基本的に予後は良好ですが、稀に急性脳炎を発症することがあります。過去には、中国、台湾、カンボジアなどで死亡例がでたこともあります。

(症状) 手のひら、足の裏、ひざ、おしり、口腔内に特有の水疱様の発疹ができかゆみを伴います。発疹は2～3日で褐色の斑点となりその後消えてしまいます。口腔内の水疱はやぶれると水がしみて痛みを伴い、このため口からものが食べられなくなり、脱水症になることもあります。

(潜伏期間) 3～4日

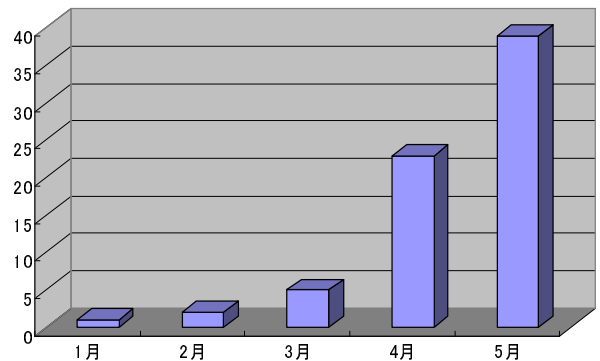
(原因ウイルス) コクサッキーウイルス、エンテロウイルス

(感染経路) 咽頭からの飛まつ感染か、患者便中(約1ヶ月排泄)

されたウイルスの経口感染が考えられます。

(奈良県の患者発生状況)

県内35定点医療機関からの患者報告数では、1月が1名、2月が2名、3月が5名、4月が23名、5月が39名と増加傾向は明らかです(右図)。この傾向は例年のピークから7月から8月まで継続されると思われます。



ヘルパンギーナ 空気感染

発熱と口腔粘膜にみられる水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。予後は良好です。

(症状) 手足口病と似ていますが、突然の発熱に続く咽頭の発赤、口腔内の小水疱が特徴的です。やがて水疱は破れて潰瘍となります。発熱は2～4日程度で解熱しその後発疹も消失します。

(潜伏期間) 2～4日

(原因ウイルス) コクサッキーウイルス

(感染経路) 手足口病と同じ

(奈良県の患者発生状況) 県内35定点医療機関からの患者報告数では、4月が0名、5月が13名と増加しています。

